

心をサポート 新しいかたち

昨年4月から始まった小中学校の完全学校週5日制と新学習指導要領をきっかけに、学力低下の懸念、土曜日の過ごし方、総合的な学習の時間、絶対評価など「教育」に関わる話題が各方面で盛んに議論されるようになりました。そんな中で、三鷹市内では、地域の人々が教育ボランティアとしてさまざまな形で学校に関わる新しい動きがたくさんありました。学校と地域の連携で広がる特色豊かな学習活動を紹介します。

目指せNPO 夢育の学び舎は私たちが支えます

四小で地域の方が学校支援の独自団体を立ち上げ

地域との交流を進める三鷹市の小中学校の中でも、先進的な取り組みで知られる第四小中学校では、保護者や地域の方がNPOを設立して学校を支援しようという動きが進んでいます。そうした動きを追ってみると――

■夢育の学び舎構想

四小では、保護者だけでなく地域の方々も巻き込んだ「参画型コミュニケーション」で子どもたちの夢を育もうという「夢育の学び舎」構想が平成12年に始まりまし

た。ある分野での専門家が先生となつて知識や技術を子どもたちに教える「コミュニケーションチャーター（CT）」、おだんごや野菜作りから環境問題まで、ユニークで幅広い内容は子どもたちに大人気、みんなの興味や感動を呼び起こします。



四小ウイングス（バスケットボール）

授業中に学校の先生の助手としてお手伝いする「学習アドバイザー（SA）」、算数やミシンの指導では一人一人について教えてもらえらるので、効果も抜群です。

こうした活動をさらに進めようと教育ボランティアのみならず、地域の方々が中心となって「夢育支援ネットワーク」を作ったのです。

■夢育支援ネットワーク

この会は12月16日（月）、約80人の会員により任意団体として発足したばかり。これまでは個々に学校とかかわっていたみなさんが、相互に連絡を取り合い、より主体的に学校に関係していく、そんな団体を作ったのです。

現在、こうした活動を支援するボランティアの総勢は100人、この構想の提唱者・貝ノ

ります。



ピーシークラブ（パソコン）

設立の一番の目的は、地域・家庭との協働による学校づくりの形を確立し地域にしっかりと根付かせること。「夢育」の継続を確かなものにするのです。

発起人のみなさんは、会の活動を維持する事務・連絡費を確保する上で有利なNPO法人化を目指すほか、将来的には四小以外の学校にも広く支援の手を伸ばすことができたらと構想しています。

同会事務局長で、地域でお好み焼き屋を営む小澤敏男さんは、自前のパソコンを四小に持ち込んで連絡網作りなどに忙しい毎日です。現在は、活動過程で知りうる個人情報保護の方法などを検討中です。お子さんはどうに小学校を卒業して、「夢育」とは地域の活動で巡り合います。



小澤敏男さん

「子どもが育つのは学校だけではなく、地域そのものなんです。その地域には素晴らしい人材がたくさんいる、そ

ろ、現在、会員を募集中です。会の趣旨に賛同する方なら個人・団体、住んでいる地区や子どももの有無に関係なく参加できます。くわしくは第四小



書道クラブ

んな方を集めて学校を支えるお手伝いをしたい」という小澤さん。みなさんにとつての

きらめきクラブスケジュール表(12月)

月	火	水	木	金	土	日
2 ハンブルグ 四小ウイングス (バスケットボール)	3 パソコン あそび 書道	4 吹奏楽(子ども) ソフトバレー キッズダンス	5 あそび	6 パソコン 手話 しらべサロン (大人)(子ども) (コーラス)	7 吹奏楽(大人) 04サッカー 点字	8 ミニテニス いずみスワローズ (野球)
9 四小ウイングス (バスケットボール)	10 あそび 書道	11 吹奏楽(子ども) キッズダンス	12 あそび いぎりすや (英会話)	13 パソコン 手話	14 四小ウイングス (バスケットボール) 04サッカー 吹奏楽(大人) ソフトバレー	15 ミニテニス いずみスワローズ (野球)
16 ハンブルグ 四小ウイングス (バスケットボール)	17 パソコン あそび 書道 アップル組 (読み聞かせ)	18 吹奏楽(子ども)	19 あそび	20 パソコン 手話	21 吹奏楽(大人) 04サッカー	22 ミニテニス いずみスワローズ (野球)
23 天皇誕生日 四小ウイングス (バスケットボール)	24 あそび	25 終業式 キッズダンス	26 あそび 冬休み	27	28	29

美術館はぼくらの教室

市内の小・中学生が美術ギャラリーで特別鑑賞

昨年、身近な美術館として親しまれている三鷹市美術ギャラリーで、市内の小中学生が休館日を利用して貸し切りで特別鑑賞会を行いました。新学習指導要領にもある本

物鑑賞の授業をもっと取り入れたい学校にとつて、心配は子どもたちがほかの鑑賞者に迷惑をかけるのではないかと



力島の光の中で「展がその舞台に選ばれ、5日間の休館日に小学1年生から中学3年生

まで、計530人の児童・生徒が学校ごとに見学しました。同展はスペインの画家ジョアン・ミロの作品を創作過程なども含めて多角的に展示したもので、色彩に優れた作品には日本の書道に影響されたものなどもあり、難解と言われる現代美術ですが、みんなが楽しめるのではと選ばれました。

一般客のいない館内で10人前後のグループで作品を見て回ります。ときには絵の前に座り込んで鑑賞で、いつも

より気楽なムードで絵に向かいます。

見る、感想を述べ合ってから解説を聞く、うなずく子、不服そうに子に美術館ボランティアの人が「...と言われているんだけど、みんなが感じるように感じるのが正解かな」とさらに説明すると、なんとくほっとする、そんな鑑賞が続きました。静かなおしゃべりならOKなので、友だちとちよっとした美術談義も、「せつてー俺のほうが正しいよ」と自分なりの見方を



「農業は面白い、一人でやるのはもったいないと思う。うちには鶏もいるし、ミツバちも飼っているから、子どもたちが大喜びで遊んでいるのを見ると、私もうれしくなる。一粒の米ができるまでの過程を実践で知って、心を育ててほしいですね」

新川三丁目須藤嘉也さんの農園には、昨年5月から毎月、先生に引率された第一小学校の5年生の子どもたちが稲刈り、餅つきまでを体験に訪れるようになりました。それまでは毎年、5年生が社会科の時間に脱穀の様子を見学に来ていましたが、須藤さんと学校が相談し「せつかく学校週5日制の完全実施が始まるから、土曜日を利用して、一粒の米ができるまでを、実践で学んでみよう」と、

「一小で、学校と地域を結ぶインターネットの実験が本格的に始まったのは、平成13年6月。須藤さんはこのときから、メンター（地域協力者）として参加してき

ました。このインターネットを使って、画像を送れる携帯端末で稲の生育の様子を学校で授業中の子どもたちに見せて話し合

土曜日の農園とメール交換で知る「一粒のお米ができるまで」

一小ダツシユ村

「一小ダツシユ村」と名付けた取り組みが始めたのです。種まき、株分け、草むしり、さききり、ペットボトルの鳥さく作り、水やり、稲架（ハザ）かけ、稲刈り、天日干し、脱穀。そして、12月7日の精米の日には、たき火で焼き芋をしたり、芋煮を食べたりの収穫祭も。

一小で、学校と地域を結ぶインターネットの実験が本格的に始まったのは、平成13年6月。須藤さんはこのときから、メンター（地域協力者）として参加してき

ました。このインターネットを使って、画像を送れる携帯端末で稲の生育の様子を学校で授業中の子どもたちに見せて話し合

終了後、「今度は一人で、または違う人と見てください。きつと、違った見え方がしますよ」と言われて美術ギャラリーを後にしました。開館日に学年ごとや個人で見学した学校もあり、また、期間中何回入館しても無料となっていますので、本当にたび訪れる子もいたとか。あなたのお子さん、意外なこと週末は美術館にいるかもしれませんよ。